

1 特集

未来に繋ぐ道後温泉の観光まちづくり 〜道後温泉2050ビジョンの実現に向けて〜

道後温泉誇れるまちづくり推進協議会会長 宮崎 光彦

100年先も輝く道後温泉に向けて

国の重要文化財の道後温泉本館は、営業しながらの保存修理工事を予定より半年早く完了し、2024年7月に全館営業を再開することができました。これも、道後温泉の存亡をかけた大工事の実現と期間中の負の影響の軽減にご尽力を賜った、松山市はじめ関係者、地域の皆様のおかげです。明治27年の本館改築に大変なご苦労された先人の高い志、先見性、構想力、実行力の凄さに改めて敬服するとともに、貴重な歴史文化資源、地域経済のまさに「源泉」である松山の宝を、大切に子や孫の世代に引き継ぐ責任の重さを痛感しています。

まちづくり33年の総括

道後温泉誇れるまちづくり推進協議会は、1992年に旅館協同組合及び商店街振興組合に加え、地域住民や市内の個人・企業・金融機関や大学人などで構成する緩やかな会（組合員含め現在213会員）として発足。バブル崩壊後の当時、いち早く旅行の個人化を予見。従来の団体型温泉地から脱却し、地域主導で、『日本最古の歴史と豊かな文化



道後温泉周辺ファサード整備状況(前)

資源を活かしながら、もう一度100年先を見据え、観光と生活環境の調和のとれた、地元の人が誇りを持てる湯の街情緒豊かで魅力ある都市型温泉郷づくり』を目指し、様々な実績を積み重ねてきました。直近、コロナ禍により「需要の消失」という悲惨な経験をしましたが、道後温泉宿泊者



道後温泉周辺ファサード整備状況(後)

数はコロナ禍3年目の2022年度にして、2019年度対比104%という全国でも稀な奇跡の復活を遂げることができ、その後も堅調に推移しています。これは、当協議会主導の看板撤去やファサード等の景観整備、女子旅人気全国1位の原動力となった開運巡りと「最古にして





大竹伸朗氏の「熱景」



道後温泉別館 飛鳥之湯泉



蜷川実花withEiM×道後温泉DOGO ART

最先端”の「アート×温泉」の取り組みに加え、本館周辺の県道・市道の付け替えや電線類の地中化、さらに、設立以来の悲願だった第3の外湯「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」建設など官民協働のまちづくりの成果の現れです。

加えて耐震改修促進法施行の逆境にも負けず挑戦した、旅館ホテル6軒の新築建替えや面的高付加価値化工事等、8年間で100億円以上の民間設備投資を行うなど自助努力による商品力向上の結果、昨年、観光経済新聞社主催人気温泉100選全国2位に選定されました。

“これからが正念場”

しかし、真価を問われるのはこれからです。現在においても、道後温泉本館に過度に依存した地域イメージや、日本最古の歴史文

化を標榜しながらも希薄な視認性、一部地域景観の未改善に加え、各事業者においては、量的質的人材不足、諸物価高騰、宿泊収容能力の低下と高価格化、生産性向上やデジタル化・国際化の遅れなど、まだまだ多くの問題が山積しています。

このため、2050年を目途に道後温泉のあるべき姿、なりた姿を地域自らが描き、歴史的・文化的資源の「見える化」による「価値化」と様々な投資効果の最大化を図るため、2024年3月に「道後温泉2050ビジョン」を策定。（※HP「道後温泉公式エリアガイド」内で電子ブックとして掲載）若手経営者を中心に実現に向け開始しました。

“道後温泉2050ビジョン”

これまでの景観整備や最先端のアートのまちづくりを総括し、加速する人口減少や高齢社会、新たな環境変化（DX・GX・SDGs・技術革新等）を見据え、歴史ストーリーを軸にしたブランディングとターゲット設定を明確にし、道後温泉地域に新しい価値を創造するものです。

道後温泉が目指す姿と数値目標

激変する旅行形態などに対応し、『日本最古の温泉地』ということをより深化させ、原点に立ち戻り、「世界に開かれた日本の温泉文化を体現するまち 道後」を目指します。また、あえて「温泉に入らなくても持続可能



歩行者優先空間の創出(整備前)



歩行者優先空間の創出(整備後)

な温泉地」という視座からも、国内外の方がより自由に多様に道後温泉を満喫できる「デジタル温泉都市構想」などの重点事業に取り組み、2050年の目標として、①道後温泉宿泊者数を量より質の追求で80万人、②インバウンド比率を現在の14%から、敢えて50%(内アジア圏66% 欧米豪ほか34%)と設定しました。そしてその目標の達成に向けて、以下のプロジェクトを推進していきたいと考えています。

10の重点プロジェクトの推進

① デジタル温泉都市構想の実現(観光DXによる最古にして最先端の街づくり)

DXの推進により、お客様の利便性と満足度向上、施設・地域の価値向上・単価UP、収益性向上、生産性向上とコスト削減及び顧客・従業員満足度を改善。道後版DMP(データ・マネジメント・プラットフォーム)の構築と利活用。

② 道後温泉歴史ミュージアムの整備(道後温泉駅前案内所の建替え)

日本最古の温泉を学術的に表現する文献や資料等をデジタルも活用し展示。

③ 第4の外湯「道後斎戒沐浴(さいかいもくよく)の湯」の建設

欧米豪のお客様を対象に、齊明天皇斎戒沐浴の史実に基づく新様式の外湯の建築。

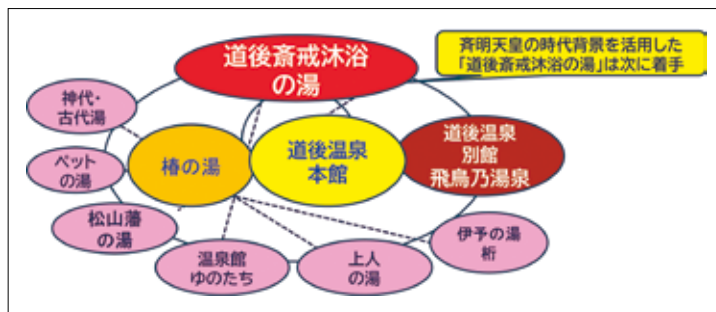
④ 温泉浴と森林浴のマリアージュ(道後公園湯築城跡の活用による現代湯治)

「身体のケア中心の森林浴」の相乗効果を図る。

⑤ 道後温泉歴史文化コリドール(回廊)



第4の外湯構想「道後斎戒沐浴の湯」



道後周辺の歴史的温泉施設

廊)の整備とアート資源の再構築。

⑥ 道後里山づくりと「マインドフルネスの地」構想とネイチャーツーリズムの推進

⑦ 災害に強い温泉地づくり「道後温泉BCP & 防災時宿泊者対応計画の改定」

⑧ SDGs・ゼロカーボン温泉地プロジェクトの推進

⑨ 道後温泉の観光まちづくり人材の育成&2拠点居住地づくりの促進

⑩ 持続可能な温泉地づくりのための財源確保と強化

「稼げる地域へ」

道後温泉を未来に繋げていくには、さらに「稼げる地域」への転換が急務です。このため、

・「そこに何があるか」でなく「そこで何をやるか」の魅力ある体験価値・実感価値を提供。

・「いいまちづくりは、いい店(旅館ホテル、飲食店、商店等)づくり」の意識と実践の徹底。

・道後の伝統は革新の積み重ねであり、イノベーションの創出で「選ばれる地」を目指す。

こととしています。

厳しい環境を迎える地方経済と雇用を支えるためにも、裾野の広い観光産業の活性化を図るよう、これからも地域を挙げたホスピタリティマネジメントを一層強化してまいります。